



かがやき



2026.2.20
第10号

編集発行／公益社団法人新潟県看護協会上越支部

支部長あいさつ

新潟県看護協会上越支部長 新井 啓子



令和7年度より新潟県看護協会上越支部長に就任いたしました新井啓子と申します。

会員の皆様におかれましては、お忙しい業務の中、上越支部の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、わが国の人口は2008年（平成20）をピークに減少しており、少子高齢化が加速しています。上越圏域（上越市、妙高市、糸魚川市）も令和7年12月現在人口は約24.4万人ですが、今後はさらに減少し、2045年には20万人を下回ると予想されています。高齢化率は3市の平均が約37%で、さらに高くなることが見込まれています。このように急速な人口減少と少子高齢化が進行し、医療・介護を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。医療資源や人材の確保がこれまで以上に重要となる中、限られた資源を有効に活用し、地域全体で支え合う体制づくりが求められています。上越地域においては、少子高齢化の進行や医療・介護ニーズの変化・多様化を背景に、上越地域医療構想に基づいた持続可能な医療提供体制の構築（医療再編）への議論・検討が行われています。急性期から回復期、慢性期、そして在宅医療・介護へと切れ目のない連携を実現することは、住民の安心な暮らしを支える上で極めて重要です。その中で看護職には、医療機関だけでなく、地域・在宅・介護の現場を「つなぐ要としての役割」が一層期待されています。上越支部では、上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会と合同で、人生会議サポーター研修を開催しています。『もしもの時のことを語り合う文化を地域に醸成させる』という将来を見据えた地域の取組みに参加させていただくことで、住民に寄り添い、つなぐ役割を果たす看護職育成を支援しています。

そして、新潟県看護協会では毎年5月に看護の日事業を行っていますが、令和8年度は「にいがた看護フェスタ in 上越」と題して、5月23日（土）エルマールイベント広場と無印良品 Open Muji を会場に開催することになりました。特にこれからの社会を創造していく小中学生に看護の魅力を伝えられるように、上越支部も協力していきます。

今後も、上越支部の会員の皆様からの声を聴きながら看護の質向上に取り組むとともに、職種を超えた方々と協働して地域住民の暮らしを支える事業にも貢献できるよう活動してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

看護職の生涯学習に関する大学での取り組みについて

新潟県立看護大学で生涯学習を一緒に続けていきませんか？

公立大学法人 新潟県立看護大学 相澤 達也

医療・看護をめぐる社会状況は常に変化しており、看護職には学び続ける「生涯学習」が大切になっています。生涯学習について日本看護協会が定める「看護職の生涯学習ガイドライン」では、「人々の健康に寄与することを目的に、看護職個人が主体となって、看護職としての行動や知識・技術等の能力の開発・維持・向上を図るために行う多様な学習活動を指す」と定義しています。新潟県立看護大学では、看護職が生涯にわたり能力を高めながら自分らしく活動できるよう、生涯学習を推進する活動を行っています。本稿では、その取り組みの概要をご紹介します。

新潟県立看護大学には、新潟県内の保健・医療・福祉の向上に貢献することを目的に学習支援活動を担う「看護研究交流センター」が設置されており、同センターが中心となって、県内の看護職の学びを支援する“看護職学習支援公開講座”を毎年開催しています。2025年度は、看護研究テーマの検討や研究方法を含む研究計画書作成に至るまでの基本知識を学ぶ「看護研究支援」コース5講座、バイタルサインやフィジカルアセスメントなど、日々の臨床ですぐに活用できる知識・技術について学ぶ「看護現場に活かす」コース4講座の計9講座で構成しました。100名を超える看護職の皆様にご参加いただき、大学の活動を通して、まさに看護職個人が主体となった学習活動が広がりました。

本講座は、看護職の皆様がワークライフバランスの中で参加しやすいよう、土曜日午後の開催を基本としていますが、参加できない場合でも会員登録することで過去の講座の一部を動画教材で視聴・学習ができる「どこでもカレッジプロジェクト（バーチャルカレッジ）」にも取り組んでいます。2026年度の公開講座および動画教材の詳細につきましては、当センターが発行するガイドブックやホームページをご覧ください。今後も“看護職学習支援公開講座”を通して、看護職の皆様の生涯学習の一助となれるよう、取り組んで参ります。



私たちは、こんな活動をしています。

◆保健師職能委員会活動報告◆

下記の通り「上越地域自治体保健師お仕事ガイダンス」を開催しました。

開催日：令和7年8月23日（土）

8月23日に看護学生又は保健師免許保有者で自治体保健師として就職することを考えている方を対象にガイダンスを開催しました。

ガイダンスは、上越地域の自治体（新潟県上越地域振興局健康福祉環境部、新潟県糸魚川地域振興局健康福祉部、上越市、妙高市及び糸魚川市）の共催、合同で運営しました。

開催周知は、県内保健師養成校及び新潟県ナースセンター上越支所に協力いただき、新潟県看護協会のホームページにも掲載いただきました。

参加者は4名で、少なめだったのですが、社会人の参加もありました。

ガイダンスの内容は、全体で各自治体がお仕事のプレゼンテーションを行った後、各自治体でブースを設置し、参加者からの質問に答えました。

各自治体のブースでは、参加者から採用試験や仕事の内容等質問が多くあり、保健師から丁寧に回答いただきました。

参加者からは、それぞれの自治体の特徴と仕事内容など不明な部分を知ることが出来た。地区担当と業務担当など、実際の業務方法を知れてよかった。授業ではイメージしにくかったものもイメージできた。保健師の生活面について話を聞いて、保健師の志望が強くなった等の意見もありました。開催時期については、もっと早い時期が良いとの意見もあり、参加者数等からも、次年度以降、実施時期や実施形態を検討し、この上越地域で一緒に保健師として活躍していただける人を増やす機会を確保していきたいと思えます。



新潟県看護協会 上越支部保健師職能委員長 小林 春恵（上越市役所）

◆看護師職能委員会活動報告◆

下記の通り「上越地域人生会議サポーター研修」を開催しました。

開催日：令和7年11月11日（火）

今年度は「上越地域人生会議サポーター研修」（ACP 研修）を看護師職能委員で開催しました。今年度で3回目の開催となりました。人生会議（ACP）とは、もしものときのために自分が望む医療やケアについて前もって考え、家族や友人、医療・ケアスタッフと繰り返し話し合い、共有する取り組みのことです。サポーターの役割は、この取り組みを地域・医療機関、社会福祉施設

等での日頃の業務において実践するとともに、普及・啓発を図ることを目的としています。研修会では上越地域人生会議協議会の籠島 充氏（上越総合病院院長）、酒井 禎子氏（新潟薬科大学准教授）からの講義で ACP について学んだ後、人生の最後にどうありたいか、もしものための話し合いをするきっかけ作りになるカードゲーム「もしバナゲーム」や、事例を用いて ACP 導入時の対話をロールプレイ方式でグループワークを行いました。受講者同士で対話をする場面の多い研修となりましたが、医療従事者のコミュニケーションスキルで、終始和やかな研修会となりました。また、所属施設の違う方と意見交換をすることで、地域の交流も兼ねた有意義な研修会になったのではと思います。研修の感想でも「医療者としての前に自身の家族のことを考えるきっかけになった。家族との会話のきっかけにしたい。」「患者さんとの関わりで、どのようにしていったらいいのか対話の方法を考えることができました。」との意見をいただきました。受講者の皆さんがお帰りになる際、笑顔で帰られる姿を拝見し、役員一同喜びを感じました。

看護協会 上越地区支部として3年目の研修となり、地域に ACP の意義が広まっているように感じます。今後も益々、上越地域で ACP が広まっていくことを願っています。

また、研修にあたってご協力いただきました上越地域人生会議協議会の皆様に感謝申し上げます。

新潟県看護協会 上越支部 看護師職能委員長 横山 知美（新潟県立妙高病院）



編集後記



今年度から、広報誌はホームページでご覧いただけるようになりました。これまでポスター形式の広報誌をご愛読いただき、本当にありがとうございました。

これからも看護の現場や協会の取り組みを、皆さまにわかりやすくお届けしていきます。ぜひホームページでチェックしてください。

上越支部 広報委員

各職能の活動や、
その様子など
ぜひご覧下さい。



<https://www.niigata-kango.com>

看護職でまだ入会されていない方、入会をお待ちしています。
入会希望の方は、下記までご連絡ください。

公益社団法人 新潟県看護協会
TEL 025-265-1225
FAX 025-265-1199

上越支部 1,540名の仲間と活動中（令和7年9月30日現在）

編集責任：新潟県看護協会 上越支部広報委員